

事例2 単元「だいじなところに気をつけて読もう」
「サンゴの海の生きものたち」を通して

つなぎことばに気をつけた読みの習得と活用

国語 第2学年

金沢市立野町小学校

1 事例の概要

(1) 学力の現状分析

全国学力・学習状況調査、県基礎学力調査や本校独自の学力調査結果により、本校の子どもの学力の実態は、次の通りである。

- ① 学習の基礎となる漢字の読み書き、計算などは概ね良好であるが、学習の基礎・基本となる知識・技能の習得に個人差があり、学び方が定着していない。
- ② 互いの考えを伝え合い、つなぎながら学び合い、高め合う学習が成立しにくい。
- ③ 文章で表現する力や読解を伴う記述する力が十分でない。
- ④ 筋道を立てて考え説明する力や事象と事象を関連づけて考える力、推論したり関係付けたりする力が十分でない。

(2) 指導の重点

① 4観点重視の「メリハリ」のある授業の展開

1授業においてつきたい力を1観点到に絞り、つきたい力を明確にして授業に臨み、習得した基礎学力を活用して、思考力・判断力、問題解決能力等を育成するための問題解決学習を展開する。

② 表現力の育成

学びの中から児童の発する言葉を取り込んだ「話型表」の活用により、コミュニケーション力を高める。また、名文、古文の暗唱、低学年の早い時期からその発達段階に応じた国語辞典や漢和辞典の使用、読書活動の奨励に取り組む。

③ 国語科を中心とした学び方の指導

思考を深め、学び方を次時に活用できるノートの書き方指導や説明文及び物語文の一人学習の仕方を発達段階に応じて指導する。学年の系統性を考えた国語科の野町スタンダードを構築する。

A-1 学校研究

A-2 話型表

A-3 名文、古文の暗唱

A-4 一人学習の指導

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・生き物の体の特徴やたがいにかかわり合う様子を進んで読もうとする。【関・意・態】
- ・事柄の順序に目を向けて読み取ることで、それぞれの生き物たちが、かかわり合っていることを読み取る。【読むこと・思】
- ・生き物たちのかかわり合いの様子を調べ、絵や文にまとめることができる。【書くこと・技】
- ・主語と述語の関係に注意して、読んだり書いたりすることができる。【言語事項・技】

(2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 確かな読みの習得と活用

- ・「問い」と「答え」に着目させる学習問題の設定
 - ・本時のつきたい力を明確にし、習得したことを次に活用
- ② 発問や板書の工夫
- ・主述の関係に気をつけて読むための切り絵やカードの使用
 - ・つなぎ言葉に着目し、まとめの文を意識した発問や板書

B-1 単元計画

B-2 事前研の内容（広見通信）

3 指導の実際 本時の学習（第二次中の2時）

- (1) **ねらい** 主述の関係や接続語「こうして」に注意して読み取ることで、たがいにまもり合っていることに気づく。（発言、ノート、観察）【読むこと・思】

(2) **学習展開**

学 習 活 動	時	教 師 の 働 き か け	予想される子どもの反応
1 前時を想起し本時の学習問題を確認する	5	< イ と ク は、どんなかかわり合いをしているのか> (※ イ : イソギンチャク、 ク : クマノミ)	
2 自分の考えを持つ	7	・「こうして…」とは「どのようにしてまもり合っているのか」と問い、具体的な内容を読み取らせる	・⑥に こうしてイ と ク は…まもり合っていると書いてある
3 どんなかかわり合いか話し合う	25	・なぜ近づかないのかをはっきりさせる ・切り絵等を利用し、「だれがどうする・何をどうする・どうなる」をしっかりと聞き合わせ、板書に位置づける ・「こうして」のつなぎことばでかかわり合いがまとめられていることに気づかせる	・⑤に ク を食べる大きな魚は、 イ をこわがって近づかない だから イ の中で ク はあんぜん…でまもられていると分かる ・ イ には毒の針があるから、 ク をまもれる ・⑥の イ を食べに来る小さな魚が近づいてくると ク がカチカチと音を立てておいはらう だから ク は イ をまもっている… ・たがいにまもり合っていると分かった ・「こうして」はつなぎことばで、かかわり合いがまとめられていると分かった
4 本時のふりかえりをする	5	イ と ク はたがいにまもり合っていた	さいごの こうして の文に、かかわり合いがまとめて書いてあった
5 次時の確認をする	3	< ホ と大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのか>	これからつなぎことばに気をつけて読もう

C-1 指導案

C-2 板書

C-3 事後研の内容（広見通信）

4 成果と課題

(1) **成果**

2年生では、この単元で初めて「問い」と「答え」の典型的な説明文に出会う。「こうして」「このように」の接続語のついたまとめの段落と具体例とを結び付けた演繹的な読みは、説明文の基本となる読み方を習得させる上で大変有効であった。次時の「ホンソメワケベラ」のところでは、この読みを活かし、省略されている接続語を補足して読み取ることができた。さらに、これらの学びを活用して、生き物ガイドブック作りができた。

(2) **課題**

話型を使い、友達と考えと比べながら活発に話し合う姿が見られるようになってきた。子どもの思考に沿った瞬時の適切な発問や切り返し、板書等に関し、さらなる研鑽を積んでいきたい。

D-1 子どもの作品例

D-2 研究授業から見えてきたこと